

東京 TS ネット主催セミナーvol.4

「犯罪学×医療×福祉 一罪に問われた障害のある人を地域でどう支えるか」レポート

2022年3月5日（土）に、今年度4回目のセミナー「犯罪学×医療×福祉 一罪に問われた障害のある人を地域でどう支えるか」を開催しました。

今回も感染対策をしつつ、会場とオンラインのハイブリット型での開催、会場は株式会社TKCさんをお借りしました。

最初に龍谷大学法学部 矯正・保護総合センター長 浜井浩一さんより「犯罪学から一罪を犯した人を排除しない社会へ ～反省は一人でできるが更生は一人ではできない」というタイトルでお話をいただきました。

犯罪に関する統計を用いながら、私たちが普段誤解してしまいがちな点を含めご説明をいただきました。浜井さんが言われる「罪を犯した人は必ず社会に戻ってきます。情けは人のためにならず。自業自得社会よりもお互い様社会のほうが生きやすいと思いませんか」という言葉は、私たち東京TSネットの活動とつながるものだったと感じました。

続いて、横浜発達クリニック副院長の児童精神科医 宇野洋太さんからは「医療の立場から 知的・発達の障害を中心に」と題してお話をいただきました。

最初にデータに基づきASDで犯罪率が高いという根拠はないという点を明らかにしたうえで、支援の必要性について整理をしていただきました。また、医師の立場から更生支援を実施する際にコーディネーターが陥りがちな点についても言及していただき、あらためて「支援」について考えるきっかけとなりました。

最後に矯正施設の退所者など社会的に孤立してしまった方の福祉実践を行っている特定非営利活動法人UCHIの理事長 牧野賢一さんから障害があり、かつ、生きづらさを抱える方への支援について「関係障害」というキーワードからお話いただきました。私たちが更生支援を行う中での悩みを整理していただいたようなお話でした。

休憩をはさんで、会場からの質問にそれぞれのお立場からご回答いただきました。

多くの質問をいただき、すべてをご紹介することはできませんでしたが、とても有意義なシンポジウムであったと思います。

今回、ご参加いただいたみなさまありがとうございます。今後もみなさまに関心をもっていただけるセミナーを実施していきたいと思っています。